



## 【インマヌエルとして来られた救い主イエス】

聖書本文: マタイの福音書 1:20-21・ルカの福音書 2:10-11

説教: 鄭南哲牧師  
(Rev. Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん! メリークリスマス! クリスマスおめでとうございます! インマヌエルの主のイエスキリストの祝福と平安が皆様のご家庭、人生の上に豊かに注がれますように切にお祈り申し上げます!

## 『◎クリスマスの真の主人公: 人類の救い主イエス・キリスト』

みなさん! クリスマスと言われると何を思い出しますか。クリスマスと言われると思えばいくつかがあります。一つは「クリスマスツリー」です。毎年12月になるとかならずツリーが登場します。すると、「あー! クリスマスが近づいているんだな!」と思わされます。まわりにも、町のどこにも、今年も間違いなく、駅前の広場にもツリーがありました。ツリーの起源を探してみると8世紀イギリスの「ボニフェイス」という宣教師がドイツのある地方に宣教師として入りましたが、その町の地域の神々である「オーディン」のため毎年カシワの木に挿みながらいけにえをささげているその町の人々を見て、それを禁じさせるために考えたすえ、いけにえより代わりにクリスマス時期にモミの木に主にささげるプレゼントをぶら下げることを進めることからクリスマスツリーが始まったそうです。それが16世紀に入ってドイツのマルティンルター先生がモミの木を室内に持ってきてそこにあかりをつけ、様々なプレゼントをぶら下げたことが流行りになって今日のようなクリスマス飾りのツリーに伝わって来ています。

また、クリスマスになると、「サンタクロース」おじいちゃんも思い浮かべるでしょう。小さい子供たちにはこのサンタの存在がとっても大きいですね。親がプレゼントを買って置いてそれをサンタさんがもって来てくれたと言います。それで、子供たちに夢を与え、クリスマスに対する期待を植えさせています。しかし、実は「サンタクロース」は伝説の人物でしょう。我々が言っているサンタクロースとして知られている人物は紀元後270年、むかしのトルコの港町だったパターラーで生まれ、343年12月6日に死んだ「セイントニコラス」という人です。この人は慈善をよく施していた人として知られています。その方の実話の中でこのような話があります。ある結婚適齢期になっている「三人の姉妹」にお金がなかったため町の遊女として売られなければならないことを知って、金が入った袋三つをこっそり家に置いて来ました。それがきっかけで今日のプレゼントの入ったサンタの靴下のようなになったそうです。セイントニコラスがサンタクロースになったのはいろんな国を航海(こうかい)していたオランダの船員たちによって伝わる過程でオランダの発音でセイントニコラウスが、「シンテルクラス」に変わって、サンタクロースになったそうです。ここでサンタクロースが良いプレゼントをくれる存在になったのです。そしてオランダのお母さんたちは子供たちに伝説を作って話をちゃんと聞いて、ほめられた子供たちに「サンタおじいちゃんがプレゼントをくれるよ」という楽しみを与えたそうです。これがサンタの由来です。実に今日の赤いクリスマスサンターのキャラクターはアメリカのコカ・コーラ会社が商売のため1931年、ハドン・サンドブロム(Haddon Sundblom)がデザインし、書き出した今のサンタクロースにもっと興奮し、人気を浴びて来ながら、いつの間にか世間の人々はイエスキリストより、コカ・コーラ社が作り上げたサンタさんが真のクリスマスの主人公であられるように信じ込んで、真の主人公なるイエスキリストにほとんど無関心ではないのが現実でしょう。みなさんも既にご存知のように、クリスマスは単なる西洋の年末祭りみたいな大騒ぎのフェスティバルではありません。

アメリカである小学校で子どもたちにアンケートで調べた結果、多くの学生たちが「クリスマスツリー、サンタクロース、キャロル、カード」などを書きました。ところが「イエス様の誕生日」だと答えた学生は一人もいなかったようです。このように今日のクリスマスは商売のため、快楽に促されてしまい、その本質がにごってしまいました。

この世のクリスマスはますます形だけ残り、遊び中心の文化に変わっていくのです。救世軍の創始者であるウィリアムブーツ先生は「いつの間にか、イエス抜きクリスマス。十字架なしのキリスト教を信じる日がやってくるだろう。」と言われましたが、それが当てはまってきているようです。クリスマスが近づいて来ると素早くクリスマスを知らせるところは教会ではなくデパートであり、居酒屋であり、郵便局などです。クリスマスとは何の意味も、関係もなく商売の策略(さくりやく)ためクリスマスの形だけが知らされて来ているのをみなさんも実感しているのではないのでしょうか。

ジョン・デイビット(John David)という人は二つのクリスマスがあると言いました。一つはキリスト信者たちがキリストに真心をもって礼拝するクリスマスであって、もう一つは X-Mas だと言いました。この 'X' という記号は本来、キリストの略字(りゃくじ)ですが、数学用語としては未知数(みちすう)です。多くの人々はクリスマスを X-Mas として守っています。これは何の意味も知らず、人が楽しむ日として守っていることを指摘したのです。我々のイエス様は2024年前にはメシアとして、救い主神の御子イエス・キリストが来られ、お生まれになられた日を意味します。

メリーは「喜んで」意味で、クリスマスの意味はクリス(キリスト)+マス(礼拝: 拝する)、X-mas の X もギリシャ語で「キリストス(Xristos: キリスト)」の意味であるので、この世に我々を救う為にお生まれになったイエスキリストを喜んで迎え入れ礼拝する日であることをその言葉の意味自体が知らせてくれています。

**「見よ。処女がみごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。(訳すと、神は私たちとともにおられる。という意味である。)その名をイエスとつけなさい。」**するとクリスマスの真の意味は何ですか。愛です。

「**神は、実にそのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。(ヨハネ 3:16)**」 神様は御自分のひとり子をとおして神の極致の愛を表してくださった日なのです。

### 『**②人の常識や理解を超えて預言の通りに成就し、来られた救い主イエス・キリスト**』

神の御子、メシア救い主なるイエスキリストのご誕生は人の期待や常識や理解を超えて来られたのです！

旧約聖書の中多くの人物や預言者たちがメシアについて預言されましたが、特に、イザヤ預言者はイエス様のお生まれの前B.C. 759年にイエスキリストの降誕についてとても具体的に予言していました。処女がみごもって、男の子を産む。その子は全世界を治め、救うために苦難をせおっているのであることを予言しました。例え、**イザヤ書7章14節と9章6-7節**です。「14それゆえ、主は自ら、あなたがたに一つのしるしを与えられる。**見よ、処女が身ごもっている。そして男の子を産み、その名をインマヌエルと呼ぶ**」/9:6**ひとりのみどりごが私たちのために生まれる。ひとりの男の子が私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。**

**7その主権は増し加わり、その平和は限りなく、ダビデの王座に就いて、その王国を治め、さばきと正義によってこれを堅く立て、これを支える。今よりとこしえまで。万軍の主の熱心がこれを成し遂げる。」**

イエスキリストがお生まれになる前の紀元前750年頃、ミカ預言者も、そのメシアがベツレヘムでお生まれになることまで具体的に預言(ミカ書5章2節「**ベツレヘム・エフラテよ、あなたはユダの氏族の中で、あまりにも小さい。だが、あなたからわたしのためにイスラエルを治める者が出る。その出現は昔から、永遠の昔から定まっている。**」)されました。神の子は聖なる地であるエルサレムでもなく、権力の都市であるローマに来られませんでした。文化の都市であるアテネでもありません。イエス様は予言の通りに成就させるためにユダの町の中で、もっとも小さい町であるベツレヘムに来られました。

そして、愛する信仰の家族のみなさん!メシアなるイエス様はお生まれになられた場所はどこでしたか。

何と臭い馬小屋の飼葉おけでお生まれになられたのです。(ルカ2:7)

「**男子の初子(ういご)を産んだ。それで、その子を布にくるんで飼葉桶(かいばおけ)に寝かせた。宿屋には彼らがいる場所がなかったからである。**」

これはイエス様の生涯をよく表しています。栄光に満ちた天の御国から汚れた世に来られましたが、派手な宮廷ではなく、金持ちの華麗なる邸宅を選ばず、貧しいヨセフの家庭を選び、誕生は飼葉おけでした。イエス様の生涯は謙遜そのものでした。イエス様の生涯は卑しまれる貧しい人たち、罪人たち、孤児や未亡人、病人の友となって下さいました。イエス様は小さい町であるベツレヘムに来られました。

その方は**みどりご**として来られました。もし、その方がつぎを持って、力と武力で巨大な軍事を連れて来られたのであれば、だれもが彼に近づくことは出来たでしょうか。しかし、イエス様はあのエルサレムのお城でもなく、人間世界の宮殿でもありませんでした。ベツレヘムと言う小さい町の馬小屋で生まれました。これは確かに逆説ですね。金持ちでも、貧しいものでも、だれでもその方に訪ねられるように、一番低いところで、みどりごとして我らの救い主が来られたのです。

つまり、**イエス様はご自分を世の中一番低くところに来られました。一番謙遜な姿を取り、へりくだった者として、だれでも出会えるような姿で来られたのです。イエス様がこの地に来られたのは神様の愛と謙遜の最高の極致(きょくち)でした。**その主の御前で謙遜に自分を低くさせへりくだる者たちが、キリストと出会えます。そのようにへりくだり、神の救いを待ち望む者たちと主は今も共におられます。願わくは、キリストの御誕を迎える今週、インマヌエルの救い主イエスキリストがクリスチャンプレイズチャーチのみなさんと共におられ、イエスキリストのある神の豊かな愛と救いの恵みを豊かに注いで下さいますように主イエス・キリストの御名によって祝福します。アーメン！

### <③救い主イエス・キリストに対する人々の反応>

**しかし、当時、無関心で、ヘロデ王のようにお生まれにならないように必死に止めようとする者たちもいました！**

しかし、人類を救うために神のご計画通り、予言の通り、お生まれになられた時、**多くの人々は無関心でした。**

実際そのメシアがイスラエルの中にお生まれになられた時に、意外と多くの人々は関心がありませんでした。天の御使いたちの軍勢が直接現われ、メシアの降誕を直接知らせ(ルカの福音書2章10-11節)ましたが、野原の少数の羊飼いたちだけがそのメッセージを聞き、直接お生まれになったイエスキリストの御前に行ってひれ伏し迎えられました。

**ルカの福音書2章13節**では「**すると突然、その御使いと一緒におびただしい数の天の軍勢が現われて、神を賛美した。**」

みなさん、ここであんまりにも不思議で、注目するところは多くの天の軍勢と御使いの賛美を聞いた人はただ少数の羊飼いでしかた。静かな夜に響く多くの天の軍勢の御使いが現れ、賛美声は回りにももっとも大きく響き、聞こえたはずでしょう。静かなベツレヘムの町の名が多くの天の軍勢と御使いの歌声の響きがきつとすごかったはずなのに、夜番をしていた羊飼いが御声を聞き、救い主がお生まれになられたところへ行って、拝見することが出来ました。

当時皇帝アウグストゥスの勅令が出され、ベツレヘムでも住民登録をするために、地元へ帰って来た多くの人々が集まっていたため、ヨセフとマリアが泊まる場所すら見つからないほど多くの人々が集まっていたはずでしたが、残念ながら、だれ一人おびただしい数のみ使いの賛美を聞いたり、見た人は一人もいませんでした。

なぜだったのでしょうか。メシアに対する関心がなかったからでした！！



ベツレヘムの人々は、メシアのことより、人のことにもっと関心がいったのではないのでしょうか。多くの人々が集まったところでおしゃべり、楽しみ、必死にお金を儲けることに、目の前のことに夢中だったかも知れません。自分の事や世間のことの話ばかりにしか傾けてないため、いくら天で、多くの天の軍勢と御使いの歌声を響いても、神からの素晴らしい良い知らせが宣布されても、聞く事ができませんでした。

夜番をしていた羊飼いたちがみ使いとその知らせを聞いたのは、当然一方的な神の恵みであり、神の選択でしたが、彼らが他の人々より信仰が深かったり、聖書の知識が多くあったとも言えません。しかし、少なくとも、天を見上げられる心、そして、み使いの知らせを聞いた時にお言葉通り信じて、すぐ従った純粋な信仰を持っていたのに間違いありません。なぜ羊飼いたちだけは、各自分の故郷に行かずに、徹夜しながらも、羊の群れを見守っていたのか、多くの神学者たちは、それについて、イエス様の時代、夜番をしていた羊飼いとという身分は、もっとも貧しく低い自分で、自分の羊を飼っていた人たちではなく、ご主人の羊の群れを代わりに飼い、守る仕事をしながら、生計をしていた人たちだと言われます。そんな羊飼いたちが、救い主がお生まれになられたとみ使いの知らせを聞いた時に、彼は、どう反応してましたか。主人の羊の群れを、しばらくおきっ放しにしておいても、決心し、覚悟してすぐ急いでベツレヘムのイエス様がお生まれになったところ行っただけです。み使いの良き知らせを信じて、すぐ従う信仰！自分がどんな損になるかも知れないけど、覚悟して、決心して、救い主のみもとに近づこうとしていた人々でした！

その結果、この世に来られた、救い主なる神の御子イエス・キリストを初めて、拝見し、礼拝をささげられる主人公たちとなったのです！ベツレヘムの町の人たちだけではなく、エルサレムの人たちも、イスラエルの人々も、救い主を日々心から信じて待ち望む信仰があったならば、いくらでも、ずっと預言されて来た救い主が実際お生まれになられたことを知り拝見することも可能でした！なぜでしょうか。

神は、数千年ずっとキリストの降誕を具体的に示し、だれでも見られるように、不思議な大きな星を現し、メシアの降誕を人々に示してくださったのですが、東方の博士たちだけが、ベツレヘムまで来て直接お生まれになられた神の御子イエスキリストを迎え、拝見することができたのです！

多くのイスラエルの民たちは神と神の御言葉を信じると言いながら、定義的に聖殿で神に礼拝を捧げていた人々でした。旧約の聖書を通してずっと救い主が来られる預言を聞き、期待感を持ちながらも、実際メシアが自分達の時代に、それとも自分たちが住んでいるところに、まさか来られるなんて思ってもなかったようです。実際彼らの心では無関心でした！

そして、さらに当時ヘロデ王はお生まれになったメシアイエス・キリストに対してさらに酷い反応をしました。マタイの福音書2章16節を見ると「ヘロデは、博士たちに欺かれたことが分かったと激しく怒った。そして人を遣わし、博士たちから詳しく聞いていた時期に基づいて、ベツレヘムとその周辺一帯(いったい)の二歳以下の男の子をみな殺させた。」

ヘロデ王はこの地に来られたイエス様を迎え入れ用とするより、自分の立場、自分の既得権、自分の利益、自分の名誉と権力がお生まれになるメシアによって奪われるのではないかと恐れ、不安になり、みどり子であっても関係なく、人を殺す剣をだし、殺すことにためらいませんでした。

一瞬、ベツレヘムの町は血のなまくさいと嘆きの泣き声が絶えない悲惨な町に変わりました。ヘロデがこのような残忍な行動をとったのは生まれた子供たちの中でイエスキリストがいるのではないかと思ったからです。ヘロデ王がこれほど悪くふるまった本当の理由は自分の王位が脅かされると思ったからです。ヘロデ王は聖書に記録されたお生まれになったキリストを政治的な王として勘違いしたのです。これはヘロデが肉体的な欲望にとらわれ、自分はイエス為損害を受けたくないという現わした行いでした。結果彼はあんな残酷で無慈悲(むじひ)な罪を犯してしまったのです。

後ヘロデ王は自分の息子さえも自分の王座を狙っているのではないかと疑ってしまい自分の息子まで殺してしまった精神的な病人でした。歴史家であるヨセフスによると、このヘロデ王は自分の息子を殺して七日目に腸がくさった病にかかってしまい死んだと証言しています。自分だけのために生きる人の結末はまさしく哀れで、悲惨です。

今日も、クリスマスを迎えながらも、相変わらず戦争や内戦、紛争、迫害や妨げが今も全世界の中で続いている事をご存知でしょうか。今日も世界中でイエスキリストを信じられないように、知らないように、救い主に一切触れず、近づけないようにどれほど激しい迫害があるのか分かりません。

アメリカのクリスチャン雑誌の中「クリスチャンヒストリ (Christian History)」によると、「イエスキリストが来られてから、キリストを信じるクリスチャンの中で殉教者数が約7千万人まで至る」、そして、クリスチャンポストによると、過去10年間世界でキリストを信じる信仰の理由で、90万人が殉教されて来ているという報告があります。OPEN WINDOWという宣教団体によると、今も、キリスト教を信じるクリスチャンたちを迫害している国が73国、キリスト教を敵対する国は151国、迫害を経験したことがあるクリスチャンは8億人、その中2億4千5百万人は今もとても激しい迫害の中にいるといわれています。今も世界中、戦争が終わり、クリスチャンやキリスト教会に襲って来る敵対や妨げ、迫害の中にいる兄弟姉妹たちのために祈るべきではありませんか。

そして、今日我々がキリストの体なる教会に自由に入り、このように礼拝を捧げられ、自由に祈れる、自由に自分の聖書を持てる、読める、賛美出来るこの環境だけでもわれらはどれほど感謝すべきなのでしょう。実はこれは当たり前なことではなく、昔日本にも激しい迫害と殉教の中でも、妥協せず、殉教の地を流したり、信仰を守り抜いて来た信仰の先輩たちのおかげでもあることに感謝しなければなりません。「ローマ12章14-15節：あなたがたを迫害するも

のを祝福しなさい。祝福すべきであって、のろってはいけません。喜ぶ者といっしょに喜び、泣く者といっしょに泣きなさい。」聖書に「第二テモテ3章12節：キリスト・イエスにあって敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けます。」

しかし、一つここで覚えるべきなのは、あんなに絶対的な権力を持って、必死にサタンがヘロデ王を利用して、救い主イエスキリストがお生まれならないようにとめようとしても、救い主は神の計画通り、神の御業の中でお生まれになられ、人を恐れさせ、妨げ、キリストに近づけないようにしても、東方の博士らも、羊飼いたちも、敬虔は人たちは御前にへりくだって迎え拝していたのです。

すから、今もみなさんにいくら戦いが、妨げがあっても、全て神の御心通りなされ、キリストが勝利して下さいますから、我らもイエスキリストの御名による信仰によって、どんなに苦しい環境や問題も貫け、乗り切って勝利をおさめることがいくらでも出来るのです。キリストの御誕は神の愛と勝利を確かに確定させ、全ての人類にその良い知らせを伝え続けましょう！

御使いはヨセフに、マリアが身ごもっている胎にやどっている命は、聖霊によるものであり、ご自分の民をそのすべての罪から救うためにお生まれになれるお方であることを教えて下さいました。

\*マタイの福音書1章20-21節「20見よ、主の使いが夢に現われて言った。「ダビデの子ヨセフよ、恐れずにマリアをあなたの妻として迎えなさい。その胎に宿っている子は聖霊によるのです。21マリアは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方が、ご自分の民をその罪(的を外す意味)からお救いになるのです。」

また、野原の羊飼いたちに現れてこう言われました。

ルカの福音書2章10-11節「御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。見なさい。私は、この民全体に与えられる、大きな喜びを告げ知らせます。きょうダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。」

\*イエス意味「ご自分の民をその罪からお救いになる」：イエス様は貧しさや病から救って下さる方ではなく、「罪から救って下さる方」です。人権運動家でも、革命家でもありません。神様と私の間をさえぎっているつみの壁を打ち壊し、取り除くために、来られた神の御子であります。

\*キリスト(Christ)の意味「メシヤ(ヘブル語)・キリストス(ギリシャ語) “あぶら注がれた方” 意味(キリストの身分と役割)」旧約時代に油そそれた三つの身分①王(King)②(大)祭司長 (the high priest) ③預言者(Prophet)でした。

<④誰でも、ただ自身の心の扉を開いてイエスキリストを迎え入れ、信じるだけで神の救いを頂けます！>

聖書では明確にイエスキリストを自身の罪から赦し、解放させ、救うことが出来るお方として信じることによらなければ、他神の救いを得ることが出来ないことを聖書は明らかに強調しつつ、教えて下さっています。

ヨハネの福音書3章16節「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」

ヨハネの福音書3章18節「御子を信じる者はさばかれぬ。信じない者はすでにさばかれている。神のひとり子の御名を信じなかったからである。」

ヨハネの福音書5章24節「まことに、まことに、あなたがたに言います。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきにあうことがなく、死からいのちに移っています。」

ヨハネの福音書7章38節「わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになります。」

ローマ人への手紙1章16節「私は福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシア人にも、信じるすべての人に救いをもたらす神の力です。」

ローマ人への手紙3章22節「すなわち、イエス・キリストを信じる信仰によって、信じるすべての人に与えられる神の義です。そこに差別もありません。」

ヨハネの手紙第一5章13節「神の御子の名を信じているあなたがたに、これらのことを書いたのは、永遠のいのちを持っていることを、あなたがたに分からせるためです。」

なぜ信じる事が大切でしょうか。一の頭と知識の次元では聖書の初めのページである創世記1章1節すら、人の頭では到底理解出来ないものだからです。不思議なのは、神の御言葉として信仰をもって聖書を読むと、聖書の66冊全てが理解出来るなるものが神の御言葉、聖書であります。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！ですから、信仰は頭でとどまっては決していけません。頭の信仰になってしまうと、むしろ、イエス様の時代の宗教指導者たちのように、ますます高ぶりになりやすく、心が頑なになりがちで、人をさばく者になってしまうことを教訓として忘れてはいけません！

信仰は心から受け止めることであり、手足と行いにより、生き方とならなければなりません。



## 「⑤信じる全ての人々にインマヌエルの神となって下さるイエス・キリスト」

神様はイエス様のお生まれの前 B.C. 759 年にすでにイザヤ預言者をとおして予言されました。イザヤ7章14節「それゆえ、主みずから、あなたがたに一つのしるしを与えられる。

見よ。処女がみごもっている。そして男の子を産み、その名を「インマヌエル」と名づける。」そしてマタイの福音書1章22-23節の「このすべての出来事は、主が預言者を通して言われたことが成就するためであった。「見よ。処女がみごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。(訳すと、神は私たちとともにおられる、という意味である。)」と引用されています。

わたしたちのうちに来られた神の御子の別の名は、「インマヌエル」です。

イエスキリストは、約2千年前に遠い異国の地で生きた、決して自分たちとは関係のない方ではありません。永遠の命を与えるために私たちのもとに来られた救い主神の御子です。全能であり、宇宙よりも偉大なイエスキリストはご自分を信じる者と永遠に共にいてくださいます。その恵みの中に留まる者は、心を尽くしてイエスを愛し、イエスがこの世に来られたことこそ最大の祝福なのです。

マタイの福音書は、インマヌエルから始まり、インマヌエルで終わります(23節・28:20「見よ。わたしは世の終わりまであなたがたといつもともにいる。」) 私たちとともにいるためにこの地に来られた神の御子は、世の終わりまで私たちとともにいると約束してくださいました。わたしたちの人生において最大の祝福は、「神がともにおられる」ことではないでしょうか。

有名な哲学者ソクラテスは40年間、プラトンは50年間、アリストテレスも40年間、自分たちの弟子たちを教えました。しかし、イエス様はたった3年間、弟子たちに教えました。なのに、イエス様の3年間の働きは130年間の古代の偉大な哲学者たちの教えとは比べられないほど人類にその影響は大きかったです。イエス様は一枚の絵も描いたことがありません。しかし、ラパエルとミケランジェロの優秀な絵はイエスキリストから靈感を受けて描かれました。イエス様はたった一行の詩も書かれませんでした。しかし、ダンテとミルトン、そして世界の偉大な詩人たちの数百編の詩をイエス様によって靈感を受け書かれました。イエス様は海外に旅行されたこともありません。全世界は今日その方から大きな影響を受けています。イエス様は一冊の本も書いてみませんでした。全世界図書館の半分以上の本が直接的に、間接的にその方と関連されています。イエス様はたった一曲も作曲されませんでした。ハイドン、バッハ、ヘンデル、ベートーヴェン、そしてメンデルスゾーンはそれぞれイエス様を賛美するために賛美歌、交響曲(こうきょうきょく)、オラトリオなどで才能をみせてくれました。くすしい御名イエス・キリスト! 力の名前、イエスキリストが我々に与えられ、共におられる日がまさにクリスマスなのです。

そしてイザヤ預言者はメシアが我らに与えられ、ともにおられることが我らにどのような最大の祝福であるのか4つの約束の表現があらわされています。

### ①救い主イエスキリストは我らの不思議助言者(Wonderful counselor)

英語の聖書はこれを'Wonderful'という単語で翻訳しています。メシアがこの地上で行なわれるすべてが不思議であり、驚きであると言う意味です。日本語の表現でも不思議、すばらしいしか表すことができませんが、あまりにも不思議なため人間としては解釈しきれない方という意味です。その方の誕生はまさしく不思議です。御霊をとおして女の子孫である少女マリアの体を借りて、お生まれになったその方のご誕生が不思議であり、その方の十字架の死も、後その方の復活もすべてが不思議でした。イエスキリストは、**不思議な我らの助言者**なるお方です。英語では'Counselor'だと訳されています。助言者と言う意味です。我々がどんな問題でもイエスのもとに持っていけばイエス様はその問題をクリアさせてくださる方です。苦しみを楽にさせてくださいます。どんなに暗闇に歩んだとしても光を照らしてください。そして我々が受けた侮辱を変えて我々を高くあげてくださる方がまさしくメシヤです。そうです。イエス様は我々の'助言者'として我々の人生の道を正しく導いて下さる方です。

詩篇37篇4-5節「主を自らの喜びとせよ。主はあなたの心の願いをかなえてくださる。あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる。」、「そしてわたしは父にお願いすると、父はもうひとりの助け主をお与えてくださり、その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにしてくださいます(ヨハネ14:16)」「主ご自身が「わたしは決してあなたを見放さず、あなたを捨てない」と言われたからです(ヘブル13:5)」、「見よ。わたしは、世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。(マタイ28:20)」、「(マタイ11:28) すべて、疲れた人、重荷を負っている人はわたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。」

そのイエス・キリストは我々の素晴らしい、不思議な助言者になるお方です。今日の時代はどれだけ相談者を必要としているのでしょうか。世の中、人生の中で不安、むなしさ、孤独のような心の病にかかっている現代人たちに相談にのってくれる人は切実に必要な存在になります。我々には自分の心、自分の問題を夜通し聞いてくれる相談者、それだけではなく、すべてを解決してくれる相談者が必要なのです。しかし、我々には叫ぶ広場がありません。さびしいです。追い詰められています。相談者のドアをたたいても根本的な解決策がありません。

### ②救い主イエスキリストは我らの「力ある神(Mighty God)」

その方の力は無限です。水をぶどう酒に変えられることができます。五つのパンと二匹の魚で5千人、2万人ほどの飢えている人々を食べさせることができました。風と嵐をしずませることができます。中風の患者も癒し、目の見えない人、耳の聞こえない人も癒すことができます。悪霊を追い出し、どんな問題でも解決できる方が我々の主イエスキリストです。イエス様は死んだ者を三人も生き返らせました。'会堂管理者であるヤイ口の娘、ナインの町のやもめの息

子、マリア兄ラザロ'です。死んだ者を生き返らせる力はただいのちの主人であられる全能の神様しかできません。「イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても、地においても、すべての権威が与えられています。」(マタイ28:18)・「それから、ご自分の郷里に行って、会堂で人々を教え始められた。すると、彼らは驚いて言った。「この人は、こんな知恵と不思議な力をどこで得たのでしょうか。(マタイの福音書13章54節)」、「人々はみな驚いて、互いに論じ合って言った。「これはどうだ。権威のある、新しい教えではないか。汚れた霊をさえ戒められる。すると従うのだ。(マルコの福音書1章27節)」

### ③救い主イエスキリストは我らの「永遠の父 (Everlasting Father)」

ここで父とは'創造主もしくは主権者'という意味です。その方は永遠な方です。使徒パウロは「イエスキリストはきのうもきょうも永遠の変わらないお方 (ヘブル13:8)」「イエス・キリストは、きのうもきょうも、いつまでも同じです。」だと言いました。「まことに、あなたは私たちの父です。たとい、アブラハムが私たちを知らず、イスラエルが私たちを認めなくても、主よ、あなたは、私たちの父です。あなたの御名は、とこしえから私たちの贖い主です(イザヤ書63章16節)」そうです。永遠に生きておられる父です。父は子供たちの保護者であり、愛で養(やしな)ってください方です。その方は父の愛でいつも我々をつつんでくださいます。我々は弱いです。ですから、時にはつまずきます。愛していると言いながらも、その方を悲しませる時が多くあります。しかし、その方は我々を見捨てることはありません。けっして我々を離れることはありません。どんなに我々がその方から遠く離れたとしても放蕩息子が両手をあげて父の家に戻る時のように、我々も悔い改めながらその方に戻ると、その方は無限の父の愛をもって我々をあたたく迎え入れて下さいます。

### ④救い主イエスキリストは我らの「平和の君(Everlasting Father)」

イエス様は我々の重荷を負ってくださり、我々の心に平安で満たして下さいます。この世の何よりも、だれからも与えられないまことの平安、つまり、'Shalom'を我々の心に与えて下さいます。その方のみがまことの平安の根源地であり、供給者(きょうきゅうしゃ)です。「キリストこそ私たちの平和であり、二つのものを一つにし、隔ての壁を打ちこわし(エペソ人への手紙2章14節)」、「ですから、信仰によって義と認められた私たちは、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています(ローマ人への手紙5章1節)」、ヨハネ14章27節「わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。」「ですから信仰によって義と認められた私たちは、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています(ローマ書5章1)」、コロサイ人への手紙1章20節「その十字架の血によって平和をつくり、御子によって万物をご自分と和解させてくださったからです。地にあるものも、天にあるものも、ただ御子によって和解させてくださったのです。」

「6何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。7そうすれば、すべての理解を超えた神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます(ピリピ人への手紙4章6節-7節)」そうです。クリスマスは平和の主が我らに与えられた日です。

クリスマスを迎える世界の人々は心の平安、家庭の平安、世界の平和を切に求めています。私たちもそうではないでしょうか。神様は人類の一番切実な願いは平安であり、平和であることをご存知でした。そういうわけでひとり子イエスキリストをこの世に送ったのです。しずかな夜空で天使たちが叫んだように、イエスキリストがこの地に来られたのは「天には栄光、地には御心にかなう人々平和が」そのものだったのです。2024年が過ぎたいまでも全人類にイエスキリストの到来が一番の喜びの良なお知らせとなっています。

みなさん! ひとりの子が我々に与えられ、今もともにおられます! そのみどりごは神様が私たちのために与えられた神のひとり子です。神の御子我らの救い主なるイエスキリストが今も我々に語ってくださっています。

「疲れた人、重荷を負っている人はみなわたしに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげよう。」

我々のすべての重荷をメシアとして来られたイエス・キリストにおおしまししょう。インマヌエルとして来られたイエス様は私たちと永遠にともにおられます。愛する信仰の家族みなさん! 我々と永遠にともにおられる方がいます。それはイエス・キリストです。我々がこのクリスマスを喜び、お祝いする理由がここにあるのです。私たちがこの世を離れる時までそして永遠に私とともにおられるそのイエス様が来られた日がクリスマスなのです。インマヌエルの主! 我々にいのちがあるかぎり、いや、永遠にともにおられる神! ですから、クリスマスには希望があります。愛するみなさん! この一年どんなにつらいことがあっても、このクリスマスからやり直せることができます!

だれでもイエス様を信じれば救われます! 日々の歩みの中でわたしとともにおられる神様を経験することが今からでも出来るます。これがクリスマスに人類与えられた「インマヌエル」の祝福だと言えるでしょう。神様はいつもともにいると約束していただきましたが、神様がみなさんと共におられることを実際最近経験して来ているでしょうか。もしともにおられないと思ったことがあるなら、それはいつですか。

2024年今年最後の主日を何とクリスマスを迎えながら、私たちが罪から救うためにこの地に来られ、私たちと永遠にともにいると約束して下さったイエスキリストの尊い御名を賛美し、感謝をささげましょう。とこしえまでもともにいると約束して下さったインマヌエルの祝福を覚え、今日からもう一度新たに日々キリストにあって歩み、キリストとともに歩みながら、御国の希望を抱いて生きる愛するクリスチャンプレイズチャーチの全神の家族となりますように主イエスキリストの御名によってお祈り申し上げます!アーメン!

